

緑窓



青山学院中等部緑窓会会報

第4号

1995年(平成7年)5月1日発行
 青山学院中等部緑窓会 発行人 外崎宏司
 〒150 東京都渋谷区渋谷4-4-25
 電話 03-3498-5387

風の記憶

緑窓会会長

外崎 宏司

(2期)



生です。熱心に活動していた人々の中には親しい人も多く、後に緑窓会の活動に参加するに当たってはその頃の人々とのつながりが役にたちました。

熱心な活動というのは、時代の流れでもありません。新制の中等部が誕生して間もなく、終戦から数えて5年にも満たない当時、社会全体が戦災からの復興と、民主主義の社会を作り出そうという熱気にあふれ、同時に戦前以来の体制の天井に穴が空き、いつも爽やかな風がわたっていたような気がします。

この状態を「中等部30年記念誌」に私たちの同期の故大掛氏は「君は青空を見たか」と記しました。事実この頃、確かに雨も雪も降っていたのでしようが、なぜか毎日が初夏の爽やかな風のわたる日々であったように思えます。この頃に中等部で触れた様々のことが、それから後の自分の生き方に大きな影響を与えました。そのため緑窓会の活動に誘われた時、繰り合わせて参加する気になったほど

ですから。

ところで、青空を風が吹きわたるような日々の記憶は別に終戦に間のない昭和20年代だけではありません。いつでも、誰でもがこの風に触れているはず。だからこそ十代が貴重な青春なのです。中等部の同窓会に出でくることが、時々この風に触れることでもあるのです。

同窓会の活動は過去への振り返りだけではありません。終戦50周年にあたる今年、阪神地区に大きな災いが襲いました。同窓会としてできることに限りはありますが、とりあえず阪神地区在住の会員にお見舞いを申し上げ、学院当局の呼び掛けに答えて、キリスト教学校同盟参加の、被害を受けた学校あてにささやかな寄付をいたしました。お役にたつことと思えます。

母校中等部はこれから50周年の記念日を迎えます。その目を迎えるにあたって、これからしばらくの緑窓会の活動をどう関わらせていけるか、その中から緑窓会の新しい活動を生み出し、引き継いで行くことが、私達の仕事となります。幸い、有能な副会長の皆さん、事務局の皆さんに恵まれました。会員全体の力を借りて是非50周年記念の大成功を見たいと心から望むものです。

ご挨拶

青山学院理事
 緑窓会 顧問

飯久保 廣嗣

緑窓会の皆様にはますますご活躍のことと存じます。母校の青山学院は昨年創立120年を祝い、21世紀に向けて新しい時代を想像しています。わが中等部も新しい体育館が完成します。充実して参りました。そして、一九九〇年からの「緑窓会の日」も今年で6年目を迎えます。これらはすべてご恩寵と皆様方のご協力の賜物であり感謝を致します。

戦後半世紀をむかえた平成7年は、大震災という幕開けとなりました。歴史上の大きな節目を感じます。われわれが人格形成時に中等部で受けた影響を生かす場面が大いにあるということを感じます。私見を申し上げるならば、日本と日本人が威厳と尊厳を確保することが重要なように思います。人として、組織として恥ずかしく

ない行動を自覚することが中等部の教育の今日的な解釈であるのかもしれない。

さて、私はこの度緑窓会の規約により会長職を外崎宏司さんをお願いして顧問に就任致しました。任期中の皆様方のご協力にここであらためてお礼を申し上げます。中等部の伝統によって始められた「緑窓会の日」がこれからも敬虔な礼拝を中心に継承され、母校の発展と会員の交流に貢献されますように願うものであります。

中等部と緑窓会そして青山学院の発展のために、私は法人の理事として微力を尽くしたいと考えて居ります。よろしくご鞭撻くださるようお願いいたします。

緑窓会の日

今年は6月3日(土)午後2時 於 青学講堂

緑窓会会員の皆様へ

「緑窓会の日」へ参加のおさそい

皆様お元気で活躍のこととお慶び申し上げます。

昨年は青山学院創立一二〇周年の催しが盛大に行なわれました。「緑窓会の日」も今年で六回目を迎えることとなりました。例年通り礼拝とお茶の会、そして講演を行ないます。今年の礼拝は山口隆康先生にお願い致します。講演は世界的に有名な箏曲家・沢井一恵(さわい・かずえ)さんです。沢井さんの箏曲演奏は、現代音楽、ニューミュージック、ジャズなど各ジャンルのフェスティバルの公演と共に各地のライブハウスで各ジャンルの音楽家と共演され、大変興味深いものだと思います。

礼拝の時に行う献金は例年どおり、タイ国チャンタミット(キリスト教関連のハンセン氏病救済組織)に寄付させて頂きます。

若いお母様方が参加しやすいように今回も託児室の用意を致しましたのでお子様連れでご参加頂けます。今年も多数お誘い合わせの上母校にお集り下さい。

沢井一恵(さわい かずえ) (七期生)

・8才より箏曲を宮城道雄に師事。

・東京芸術大学音楽学部卒業。

・沢井忠夫・一恵ジョイントリサイタルにてデビュー。

・1970 武蔵野音楽大学講師。

・1972 米国RCAレコード奨励賞受賞。

・1978 国際交流基金の派遣によりブラジル現代音楽祭でコンサート。パリ・ド・トンヌ・フェスティバルにて吉原すみれ、沢井忠夫でトリオ・コンサート、

メナムジーク・フェスティバル(ベルリン)にてリサイタル、ドイツ各地、ユーゴスラビアにてリサイタル。

・1979 オランダ・フェスティバルの招聘によりオランダ各地でリサイタル、

沢井一恵・十七絃リサイタルが芸術祭優秀賞受賞。

・1980 フランス国営放送の招聘によりコンサート。

・1981 イギリス文化省の招聘によりコンサート。西ベルリン・フェスティバル・日本芸術週間にてコンサート。ロンドン、スイスで一柳慧、吉原すみれ、



高橋アキ等とコンサート。

・1983 コロムビアより2枚のソレレコードを発表。

・1983-84 沢井忠夫と全国縦断リサイタル。

・1984 吉原すみれとのデュオでスイス各地を公演。

・1985 加古隆の箏協奏曲を井上道義、新日フィルと初演。

・現在、KAZUE SAWAI KOTO ESEMBLEを結成。外国作曲家作品も含め、

ワールドツアーを展開中。N.Y.TOWN HALL、ケネディセンター、

ウィーンコンツェルトハウス、シャンゼリゼ劇場、モスクワグリンカ

ホール、ウィーンセセシオンなどでリサイタル。

・現代音楽、ニューミュージック、ジャズなど各ジャンルのフェスティバルの公演と共に各地のライブハウスで各ジャンルの音楽家と共演。

・KAZUE SAWAI KOTO ESEMBLEは、日本の一五〇〇年も続いた箏の歴史を大きく変えた新しい可能性である。

(ワシントンポスト評) 貴女と私で作った音楽は、今日ここで異なる東と西を結び合わせた。我々は、今日の地点に共に立ち、これからの新しい創造へむかうのだ。

(ジョン・ケージ) 平常、なかなかつかみがたい日本人の思想を今日の箏の演奏を通して、私ははつきり、そして初めて強い日本人のメッセージを受け取った。

(ダニエル・ミッテラン)



山口隆康(やまぐち たかやす)

1945年 横浜に生まれる。

1970年 東京神学大学院修士課程終了

1984年より1986年、ハイデルベルグ大学に、R・ポールの

ン教授のもとに助手として留学。

現在 東京神学大学教授

日本基督教団玉川平安教会、並びに五反田教会の牧師。

著書

「CS説教黙想集」(1982年 日本基督教団福音主義教会連合)

「響き出る神の言葉」(共著 1986年 聖文舎)

「アブラハムと実践神学」(1988年 東神大パンフレット)

「教会形成の要点」(1990年 鳥居坂教会文庫)

「聖徒の交わり」(1991年 鳥居坂教会文庫)

他、論文等多数

神戸にて……

阪神大震災レポート

雄谷芳郎(27期)

外崎会長のごあいさつの中にもあります通り、緑窓会では阪神大震災に際し、寄附金をお送りすると共に被災地の近くにお住いと思われる校友を名簿より探し出し約50名の方にお見舞いのカードをお送りしました。

その中のお一人で27期の雄谷芳郎さんより事務局にお便りをいただいたので、生々しい現地状況を皆様にもお知らせせしめたいという事もあり、外崎会長に多少、手直ししていただいて、ここに載せさせていただきます。

緑窓会 事務局 御中

お見舞いのカード、昨日、頂きました。

ご多忙のところ、本当にお心使い有難うございました。

さて、添付のFAX、もともとは私達のために義援金を送ってくれた中等部/高等部の同級生多数にあてた礼状を内容 Modify したものです。タイミングが合えば、適当に内容を追加/削除/変更して同窓会誌に載せて戴いても結構ですし、単にそちら事務局での状況把握の一助にして頂いても結構です。

青山学院中等部、同窓の皆様へ

この度は多くの皆様から様々な形でお見舞いを頂き、本当にありがとうございました。ここは文章の体裁は気にせず、思いつくまま、こちらでの状況を書かせていただこうと思います。

私達の住んでいた社宅は東灘区にあって、かなり広大な敷地に5階建てが5棟、10階建ての社宅が1棟ありました。私達が入っていたのは10階建ての、全部で約260世帯弱の方でしかもその10階でした。だから揺れは同じ東灘区内でも他の比ではなかったと思います。5階建ての方はその後の神戸市の調査で全壊の認定を受け、2棟が使用禁止になりましたが、いずれも外観はちゃんとしていました。

しかし私達の住んでいた棟は1階が完全に潰れ、しかも遠くの方から離れてよく見ると西側に少し傾いていて、大変なダメージを受けました。

2、3年前の新人で当社のラグビー日本一に大きな貢献をした富岡剛志くん(彼も私と同じく初等部からの進学で、中等部/高等部/大学を経て当社に入りました。残念ながら、私は彼とはまだ面識はないのですが、たぶん彼は私より7年ぐらい後輩だと思います。私などほとんど単なる無印サラリーマンですが、彼は会社では超有名人です。)も同じ棟に住んでいました。

我が家も家の中は本当にメチャメチャで、倒れなかったのは冷蔵庫、洗濯機、乾燥機だけという状況でした。それも、たまたま前にあったものの、先に倒れたものがブロックしたという感じでした。食器棚、箆筒、本棚等みんな倒れ、冷蔵庫の中のものほとんど外に飛びだし、あの重たい電子レンジが、TVが床に落ちました。

これが約260世帯ほとんど100%同じ状況のようでした。

地震直後は真っ暗であったし、いきなりあらゆる家具が倒れたので、息子などどうやって倒れてくる家具を避けられたのかは分かりません。ま、家内は頭に小さなたんこぶをひとつ作っていたので、息子の体に覆い被さった時に恐らく倒れてきた家具にぶつかったのだと思います。(ほんとに母は強し!です)揺れている間、(一瞬)は家具が倒れ、とりわけ食器類が床に落ちる凄まじい音(鼓膜がほとんど破れそうでした)がしました。

その後シーンと静まり返り、非常ベルだけがけたたましく鳴り続けて

いました。食器と家具のガラスでグシャグシャの台所の床の上を踏み歩き、玄関から外に出ると、廊下は隣近所の人でやや騒然としていました。ガス漏れの臭いがひどく、停電の中、妙に明るい月の明りで、ガスがあたりに霧のように立ち込めているのがよく見えました。6時すぎから日が昇る7時近くまで本庄中央公園で過ごしました。

当日はあつという間に昼になり、夜になりました。空を報道のヘリコプターが飛び回るだけで、救援は何もありませんでした。私達は同じ社宅に住む4家族とずっと一緒に行動をともしました。社宅に何度か帰り、貴重品の他は、子供のオムツ、オシリ拭き、着る物、毛布、布団、ジュース、ビール、おつまみ、缶詰などを皆で山のように持ち寄りました。その晚いったん床に入った近所の独身寮が、夜中の大きな余震で危険な状態となり、会社の別の避難所に移動しましたが、人が一杯でもあり、私達は焚火にあたりながら、一晩外で過ごしました。一晩中ゴオーツという地鳴りが聞こえ、余震も度々あつておちおち寝られませんでした。その晚、あの時点では神戸でこの冬一番の冷え込みとなりました。

ようやく日が昇ると、近くの港にあるLPGガスタンクからのガス漏れで、丁度私達のいた地域にもNHKラジオを通して避難勧告が出ました。結局私達は8時30分頃にそこを出発し、友達の家族みんなで十数キロを5時間半かけて歩き、大阪まで行く電車が動いていた西宮北口まで行きました。たくさんの方が阪急電車の線路の上を西宮に向かって歩いていましたが、私達はベビーカーを押していたので周辺の道をグルグル迂回しながら長時間かけて行きました。西宮北口に到着してホーッと一息ついてたまたまその日の毎日新聞を抜けて見ていると、毎日新聞の記者に取材を受けました。1月20日付けの同新聞に結構大きく一家の写真が載りました。それから阪急電車で大阪に出ました。

私達はまさに被災者丸だしルックで、東京で言えば渋谷のような感じの梅田界限に出ました。そこでサラリーマンが普段と全く変らない感じで喫茶店のコーヒーをすすっているのを見て、自分達が突然、異次元にワープしたような、何とも言えない違和感を覚えました。その晚、友達の知り合いの、奈良に近い柏原にある教会にみんなで一泊させていただきました。

その日のうちに便を予約し、翌日関空から東京に飛行機で移動しました。空港の待合室でニュースを見ながら、私は突然涙も分らず涙がこみあげました。家内も震災の当日から、子供が寝て、フツと一息つける間があると、よくひとり涙を流していました。それから約一週間、東京の自宅を過ごし、ズボンなどの当面の普段着やら下着やらメガネなどを買い揃えました。なにしろ私などパジャマのズボンの上にスウェットパンツ、さらにその上にテニスのウィンドブレーカーのパンツを重ねて着る……という本当に妙な格好で東京の実家まで逃げて来たのです。

私自身はこれまで正直言つて、あの長崎や北海道地震の時、募金のひとつもしていません。ですから今回こうして自分が親戚やら友達やら同僚から次々にお見舞いを頂き、かなり後ろめたい気持ちがあります。しかし現実には、私のような貧乏サラリーマン家庭でもこれからそれなりに物入りであるのは間違いなく、新しい生活が始まったなら、家内とよくよく考えて、皆様からの貴重なお金の使い途を考えたいと思います。

地震の後、もし自分が死んでいたら何が心残りになっていただろうと考えたことがあります。その時、この間の中等部の同窓会、当日、お客さん、上司、みーんな怒らせてでも神戸での仕事を放り出して行けば良かったと何度も思いました。

また、ああいう同窓会を是非やつてほしいなあと思います。(一部抜粋)

PS 私は住所不定に近い状態なので、連絡先として会社の名刺を添付致します。当社(神戸製鋼所)はこれまで400億の赤字に四苦八苦してきたのですが、震災で本社地区の建物は見事に全て倒壊し、神戸、加古川の鉄の主力工場も大きな被害を受けたため、赤字は一挙に1400億に膨れました。これでは私もいざ親会社に戻るところか、1、2年先は雇用も危ないのでは……とひそかに危惧しています。震災後通産大臣には二度も当社の本社、各工場を視察していただいたそうですが、何とか国としての大きな援助を授けていただきたいとまことに勝手ながら私は強く念じています。

(私も30歳を超えると、心はすっかり会社人間です)

「'94緑窓会の日」開催報告

「'94緑窓会の日」実行委員長 白井 茂(6期)

一九九四年の「緑窓会の日」は、六月四日(土)短大の礼拝堂において開催されました。

中等部同窓会の創立四十周年を記念して、原点・祝祭・継続をテーマとして始められたこの会も第五回になりました。

去年は、青山学院の創立百二十周年に当たったため、礼拝の説教を、院長の深町正信先生にお願いしました。

先生は「殺すな、愛せよ」とのテーマで私達の心の奥には他人に対するヒステリックな感情が潜んで居り、そうした感情を相手にぶつけてしまう事が、その相手をどんなに傷つける事になるかを論され、他人に真実の愛をもって接する事、他人を救す事が大切であると説かれました。

礼拝の後は、短大の地下食堂で、懇談のティータイムです。懐かしい先生方や先輩、後輩が一体となって、話が盛り上がり、一時間があっという間に過ぎました。

最後は、校友、田坂典亜氏による「日本の飽食とアジアの農業汚染」と題する講演でした。

氏は、私達が毎日何気なくおくらしている暮らしの中で、安易に食べ物を残して捨ててしまう習慣等が、飢えるアジアの人々の生活を危機にさらし、又食料を増産する為に使われる農薬が地球環境を破壊すると共に、アジアの人々の健康を侵し、更に輸入食品を通じて私達や、私達の子孫の健康をも害する結果になっている事等話されました。

OHPや、ビデオ等を使い、時間を超過するほどの熱演でいろいろと考えさせられる事の多い講演でした。

当日は、講演のテーマに関心の強そうな、若いお母様に参加しやすいようにと、託児室を設けてみました。「ご利用はお二人だけでしたが、「久しぶりでゆっく」と礼拝や講演会に参加できた」とお喜びでした。

礼拝の時の献金は、例年どおりタイのハンセン氏病の救済組織であるチャリティミットに寄付されました。

今回も実行委員ばかりでなく、多くの緑窓会会員に支えられて「緑窓会の日」を開催する事が出来ました。同窓会は、卒業生一人一人の物であるので、これからも緑窓会がますます活発に活動できるように、一人でも多くの会員が、会を作る事に参加されますよう、お待ちしております。

中等部だより

中等部教諭 石出 道雄

★教員異動

武田賢三先生

43年間の長きにわたって中等部に御奉職された武田賢三先生が、3月で停年を迎えられ、御勇退なさいました。体育教師として、ラグビー部・バスケット部・ゴルフ部などの顧問として、多くの生徒に多大な感化を残されました。

藤井和弘先生

社会科教師として、またラグビー部顧問として5年間御奉職され、この度一身上の理由で御退職されることになりました。この間にラグビー部を六中男子リーグ・関東大会・東日本大会で優勝へ導かれ、短い間にも部員にとっては思い出多い顧問となりました。

★新校舎完成

青山学院創立120周年記念事業のひとつとして、南校舎が完成し、今年度から使用しています。南校舎には、主に次のような施設が完備されています。

☆メインフロア||バスケットコート2面がとれる広さ

☆プレイルーム||メインフロアの3分の1程度の広さ

☆プール||25m・6コースで温水

☆パソコン室||40余台のパソコンを設置し、数学・技術家庭等を中心に授業で使用

☆小教室||少数クラス(国・数・英)を中心に使用

☆多目的室||文字通り、各種の目的で使用

☆和室||茶道・箏曲・書道などクラブ活動で使用

★中等部創立50周年

再来年(1995年)、中等部は創立50周年を迎えます。中等部校務分掌にも「50周年委員会」が設置され、どのような事ができるか・どのような事をしなくてはならないか等話し合い・検討しています。検討中の計画がもう少し具体化しましたら、緑窓会の役員・会員方々に御協力をお願いすることになると思いますので、その節はよろしくお願いいたします。

★中等部へどうぞ!

校舎も教員も、毎年少しずつではあるものの変化しています。卒業生として忘れられないように、たまには顔を出してください。お待ちしております!

青山学院中等部緑窓会常任幹事名簿

役職	氏名(旧姓)	期	役職	氏名(旧姓)	期	役職	氏名(旧姓)	期	
顧問	飯久保 廣嗣 (宮治)	1	役員	岡松 孝子 (中村)	10	学校連絡	町中 梅木 (竹崎)	10	
会長	飯余外 悦宏 (坂本)	2	監査員	田村 名子 (窪寺)	11		野津 洋子 (岩崎)	22	
副会長	羽生 基恵 (木田)	4	委員	林 小太郎 (窪寺)	6		梅石 真道 (戸田)	22	
	井村 茂子 (徳永)	5		尾 美智子 (倉橋)	9		石 喜子 (鮎川)	22	
	廣悦 孝昌 (山井)	6		照美 京洋 (大久保)			古 喜子 (古谷)	22	
各期幹事									
1	飯久保 廣悦 (宮治)	8	鳥門 細王 (原田)	18	小西 平内 (高橋)	31	井鈴 大西 (石塚)	伊木 長貴 (窪寺)	史子 (林)
2	飯久保 悦孝 (坂本)	9	居田 田尾 (窪寺)	19	西竹 野木 (岩崎)	32	大西 飯今 (戸田)	森村 真明 (鮎川)	子子 (林)
3	飯久保 昌一 (山井)	10	田村 野津 (倉橋)	20	古高 野木 (大久保)	33	飯今 竹鹿 (山井)	田井 脇島 (山井)	子子 (林)
4	飯久保 義利 (徳永)	11	村部 石生 (山井)	21	高杵 野木 (倉橋)	34	鹿和 戸松 (山井)	田村 沢藤 (山井)	子子 (林)
5	飯久保 美恵 (木田)	12	阿白 志岩 (山井)	22	寺平 野木 (山井)	35	松崎 関清 (山井)	水谷 幸克 (山井)	子子 (林)
6	飯久保 加勝 (伊井)	13	黒山 吉大 (山井)	23	木加 三小 (山井)	36	清深 池崎 (山井)	水谷 純裕 (山井)	子子 (林)
7	飯久保 秀皓 (山根)	14	長松 黒山 (山井)	24	上田 安渡 (山井)	37	池崎 土栗 (山井)	水谷 武重 (山井)	子子 (林)
		15	大脇 良高 (山根)	25	山鈴 仁木 (山井)	38	栗山 地森 (山井)	水谷 健寛 (山井)	子子 (林)
		16		26	木科 村田 (山井)	39	下主 下主 (山井)	水谷 希 (山井)	子子 (林)
		17		27	藤 高 (山井)	40	本岡 水 (山井)	水谷 希 (山井)	子子 (林)
				28		41			
				29		42			
				30		43			

緑窓会選出校友会評議員

1	河野 誠一	4	岩嶋 恵美子 (徳永)	11	岸本 英雄
3	飯村 賀俊	5	三上 信二郎		
4	志賀 俊	9	細田 洋		

1995(平成7)年度 収支予算書

自 1995年(平成7年)4月1日
至 1996年(平成8年)3月31日

青山学院中等部緑窓会

支出の部		収入の部	
科目	金額	科目	金額
会報作成費	500,000	入会金 *1	825,000
会報発送費	1,200,000	維持会費 *2	550,000
名簿管理費	300,000	維持会費 *3	1,400,000
事務用品費	50,000	受取利息	150,000
会議費	25,000		
交通費	80,000		
印刷費	20,000		
水道光熱費	12,000		
通信費	80,000		
慶弔費	60,000		
雑費	50,000		
予備費	200,000		
事業費	600,000		
事務器購入費	200,000		
(小計)	3,377,000	小計	2,925,000
当期収支差額	-452,000		
次期繰越金	3,307,599	前期繰越金	4,544,026

1994(平成6)年度 収支計算書

自 1994年(平成6年)4月1日
至 1995年(平成7年)3月31日

青山学院中等部緑窓会

支出の部		収入の部	
科目	金額	科目	金額
会報作成費	603,624	会費収入	
会報発送費	1,163,615	1994年度入会金	825,000
名簿管理費	88,070	275名	
事務用品費	25,777	維持会費収入	2,989,750
会議費	49,070		
交通費	55,940		
印刷費	3,388		
水道光熱費	12,000	諸収入	
通信費	81,820	預金利子	151,592
慶弔費	700,000	名簿収入	1,000
雑費	113,612	雑収入	97,223
予備費	383,180		
(小計)	(3,280,138)	(小計)	(4,064,565)
次期繰越金	4,544,026	前期繰越金	3,759,599
合計	7,824,164	合計	7,824,164

予定正味財産合計(96年3月末現在) 7,824,164 - 452,000 = 7,372,164
*1, *2: 新入会員 275名分 *3: 一般会員 700名分

※慶弔費には、新校舎建設のための寄付¥500,000と阪神大震災へのお見舞い¥100,000が含まれています。

新校舎、体育館完成!!

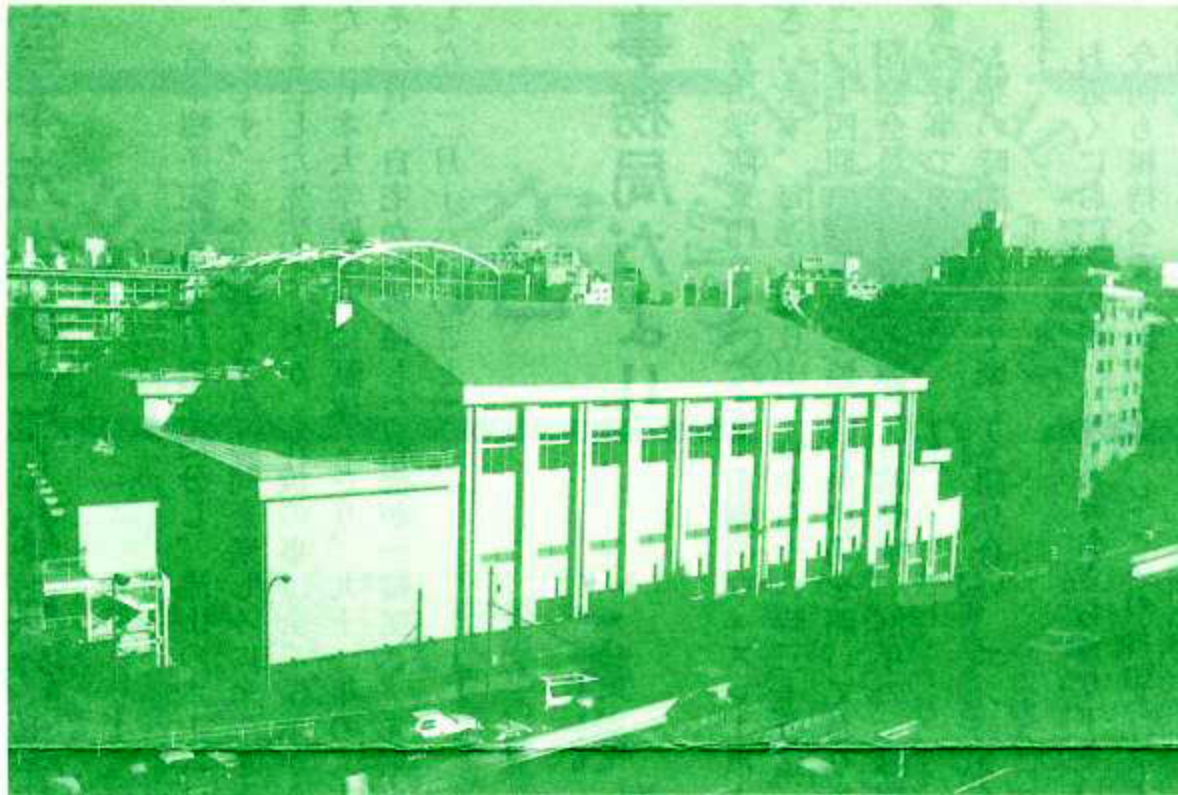
満開の桜のもと、四月十一日一時から理事長、院長以下関係者の皆様
 によって献堂式が行われました。

一九九三年三月、建設の正式決定後、二十ヶ月の工事期間を経て完成。
 総面積一、四二四坪の中に体育館、プール、コンピューター室、和室(茶
 室)、その他の小教室などの設備があります。

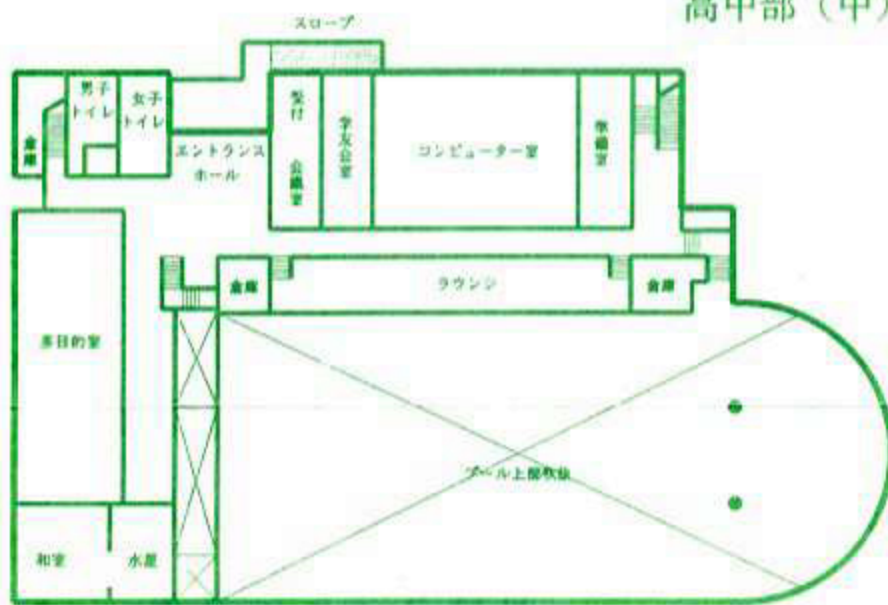
献堂は式後、全館の披露があり、大学生以下の水泳部員によるエキジ
 ビションが行われました。入口の横に緑総会からの寄附金をもとにした
 しだれ桜の植込みがあります。ご来校の折には是非ご覧になって下さい。
 この素晴らしい校舎、体育館が成長期の生徒さん達の体力作り、人間

形成に有意義な場にな
 る事と心から期待し、
 祈っております。

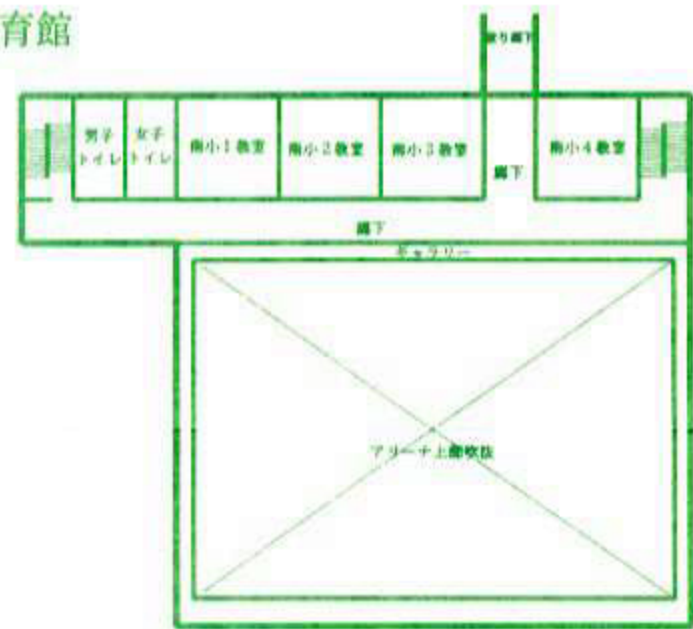
檜村 記



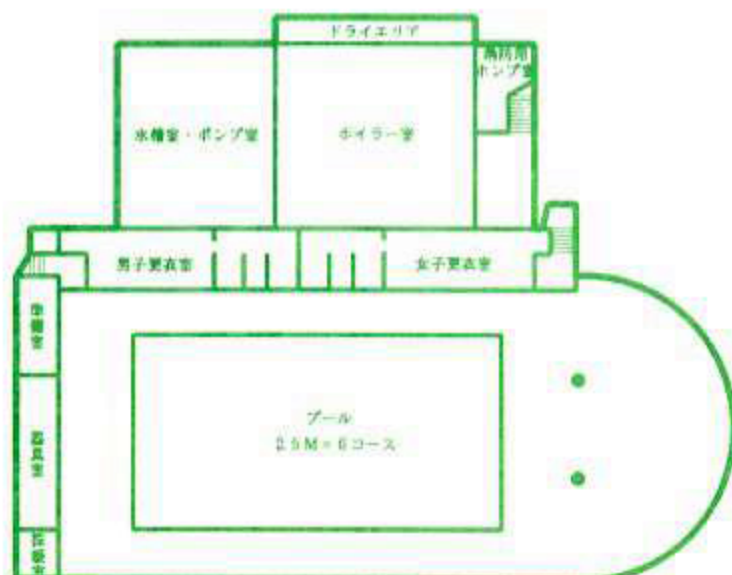
高中部(中)校舎・体育館



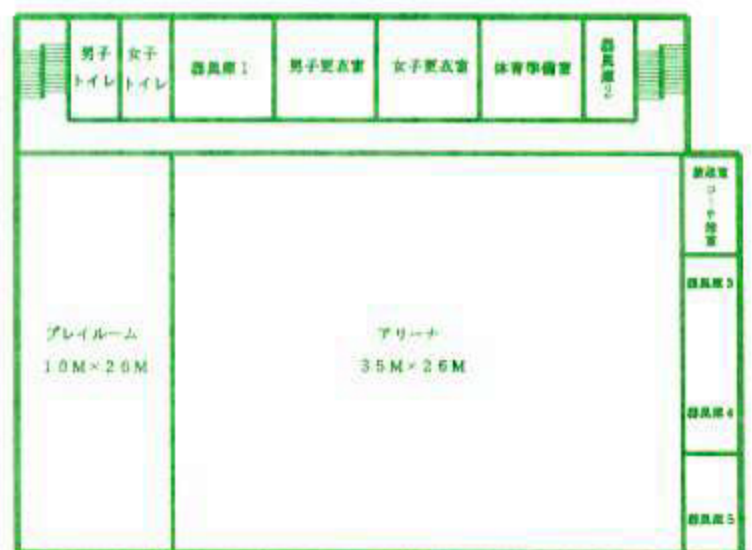
1階平面図



3階平面図



地下1階平面図



2階平面図

宮本先生が亡くなられました。

八期 里内得子(水上)

宮本梅子先生がご自宅を処分し、流山のホームに入られたのは二十二年前のことです。多くの教え子の訪問を楽しみに余生を送られました。幼女のま、お年を召した先生でしたが、死後の事は全て指示があり、その通りに行動しました。日本大学医学部に献体なさり、九十一年の人生を見事に終えられました。その日、自宅から移植した紅梅が一輪咲き、先生の胸元に飾りお見送り致しました。二月十八日のことです。

事務局だより

副会長 豎村美恵子

青山学院東門を入れてすぐ右側のウェスレーホール三階に緑窓会事務局がございます。毎週火曜日十三時から十六時三十分迄一、五、六、七、九、十、十二、十四期の皆様のご協力で事務局を開いております。

同窓会員の会費、名簿の台帳整理、例年の「緑窓会の日」の計画、発送等が重要な仕事です。

お茶の時間には皆で楽しく語り合い、エンジョイし乍ら、仕事を進めております。

お近くにおいでの際は、是非お立ち寄り下さいませ。お待ちしております。今回も維持会費未納の方に、ピンクのお知らせを同封させて頂きましたので、ご納入下さいますようお願い致します。

六月三日の「緑窓会の日」も近づいてまいりました。皆様とお目に掛れますのを楽しみにお待ちしております。

事務局の電話番号です。(3981) 5387

伝言板

28期

六月三日(土)の夕方、青山学院近辺にて二八期会を開催します。詳しくは後日案内状を郵送しますので、是非お誘い合わせの上、お出掛け下さい。

幹事 依田・清水

緑窓会旗ができました。



九三年十月十五日、二期生による「上参郷先生を囲む会」が催されました。この時の会費の一部を緑窓会の旗を作ってくださいということで寄付としていただきました。

旗は九四年九月二十七日完成、受取りました。色は緑窓会の緑を基調に濃緑と、浅緑の二種、各期の会などに活用いただきたいと思います。

お願い

この「緑窓」は今年は一、五〇〇部作成しました。緑窓会の日のご案内と共に会員全員に送られております。1992年度から4年毎に二、〇〇〇円(一年五〇〇円)の会費の払い込みをお願いしていますが、(1992年度以前に社会人になられた方にのみ会費の払い込みをお願いしています。)過去3年間で会費を払い込んでいただけの方はわずか30%に過ぎません。

今後、緑窓会活動を続けて行く上で大変心配をしております。毎週火曜日に事務局に来ていただいたり、緑窓会の日準備をいただいたり、全て役員の方々のボランティアに甘えているのが現状です。

どうか、健全な校友会活動が続けられます様に皆様には是非ともご協力をお願いいたします。